

子どもの安全を守るために。

14歳以下の子どもの死因第一位は転倒や落下など「不慮の事故」によるものです。ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、事故予防のための講演やワークショップなどの開催を支援することで、子どもの安全に社会全体が積極的に取り組んでいくように働きかけています。

子どもの事故防止セミナー

転落、誤飲、やけど、水の事故など、子どものまわりには危険がいっぱい。不慮の事故で亡くなる子どもが後を絶ちません。これらの事故は大人が注意すれば防げたものも少なくありません。まずは事故を予防する。そして万一事故が起きてしまったときには周りにいる人が適切な応急手当をする。社会全体がその意識と知識を持つことが、子どもの安全に大きな役割を果たします。

子どもを不慮の事故から守る

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、日常生活で起こりがちな子どもの事故の様子を展示した「セーフキッズトレイン」(国立成育医療センター)や子どもにとって危険な台所まわりの箇所を提示する「セーフキッズキッチン」(宮城県立こども病院)を設置するなど、事故を起こさないための子どもの事故防止プログラムに取り組んできました。

予防と対応の両面から安全を確保するために一方、子どもの事故による犠牲を防ぐためには、事故が起きてしまったあとの迅速な対応も重要です。一口に応急手当といっても、相手が大人と幼児では手当の方法が異なります。子どもの安全を守るためには、事故を起こさない注意とともに、“万一子どもが事故にあったときどう対応するか”を知っておくことが大切

であり、そのための普及活動が必要とされています。ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、財団法人東京救急協会*との協働で子どもの事故防止セミナーを開催しています。セミナーでは、予防と手当の両面から「事故予防の知識」と「事故後の手当の方法」を同時に学ぶ内容を盛り込んでいます。

楽しみながら安全を学ぶ子どもの事故防止セミナー

2004年には、保育士・保健師など子育てに関わる職業に就いている人やその職業をめざしている学生向けに「不慮の事故と応急手当セミナー」(6月・東京都立川市、11月・岐阜県各務原市)や、親子を対象にした「夏休みワークショップ」(7月・東京都立川市)、「子どもの事故防止セミナー」(9月・山形県東根市)など計4回開催しました。

親子向けのセミナーでは、小さな子どもにも分かりやすく身近にある危険をスライドで紹介したり、クイズ形式の講演を行っています。また、トレーニング用の赤ちゃん人形などを使っているいろいろな応急手当を学ぶ実技には、大人も子どもも真剣に取り組みます。来場者からは「大人は日常の中に潜む見落としがちな危険をあらためて知り、子どもは安全への意識を高めることを通して“命の大切さ”を学ぶことができた」との声もいただいています。



*財団法人東京救急協会
1995年設立。一般の人から救急関連事業に携わる人向けまでの応急手当講習を東京都委託により行っている。その他各種の救急関連事業等を実施。